

3. 口頭練習の方法を考えましょう。(今日は語彙導入は省略です。)

<基本練習> 練習方法とその説明を線でむすんでください。

- | | |
|---------|----------------------------|
| a. 反復練習 | ①文の中の単語を入れ替えて文をいう練習 |
| b. 代入練習 | ②短い文に言葉を続けて長い文を作成(完成)させる練習 |
| c. 応答練習 | ③教師が言った言葉を同じように言う練習 |
| d. 変換練習 | ④教師が与えた言葉を決められた形に変えて言う練習 |
| e. 拡張練習 | ⑤質問と答えの形式になっている練習 |

<応用練習>

さて、絵を使ってもうちょっと練習しましょう。ここでは教師中心の基本練習から少し離れて、もう少し進歩したドリルを考えます。今からお見せする。二つ絵でを使って下の1, 2の文例を練習してみましょう。最初の絵と、二つ目の絵で練習するときの違いがありませんか?

文例1 A: ()はどこにありますか?

B:そこです、そこ、()の)にありますよ。

文例2 A:すみません、()はどこにありますか?

B: ()ですか? ()にありますよ。

ワンポイントメモ

練習方法1:インフォメーションギャップ

インフォメーションギャップは、日本語教育の現場で頻繁に用いられる練習ドリルの一つです。方法は、学習者2人をペアにし、AシートとBシートという二つの種類の異なるシートをわたします。AとBでは書かれている情報に差があり、なんとか相手から聞きださないと、不足している情報が埋められないことになっています。

自分自身の日常生活を思い出してみれば、情報の差や、意見の差を埋めたり調整したりするために会話していることが多いことに皆さんも気がつくでしょう。そのような現実的なコミュニケーションをいかに教室に取り入れることができるか、それが授業をおもしろく意味あるものにできるかどうかの鍵だといえるでしょう。

より深く学びたい人のために

『国際交流基金 日本語教授法シリーズ 初級を教える』ひつじ書房

『みんなの日本語I』第10課 スリーエーネットワーク